

- 29日、レアンカ外務・欧州統合相の訪露
- 29～30日、トゥスク・ポーランド首相の来訪

A. 主な動き

1. 内政

▼議会の動き

- ・26日、ルプ民主党党首(大統領代行)及びギンプ自由党党首は、本年度予算案を内閣及び議会における審議にかける前にAEL内で協議を行う必要があった旨フィラト首相を非難。
- ・29日、議会は、国家公務員、裁判官及び警察官の退職後の特権を停止する法案を採択。これに対し、共産党は、同法は憲法違反である旨非難。
- ・31日、議会は、6月5日に地方選挙を実施することを決定。共産党は、選挙準備の時間が十分に確保されていないため6月19日実施の必要があるとし、右決定を非難。
- ・1日、チョーカン中央選挙管理委員会委員長は、選挙準備の時間は十分に残されているとし、6月5日の地方選挙実施に障害は無い旨発言。

▼その他

- ・25日、ヴォローニン共産党党首(前大統領)は、他党との連立形成の意向はないとしつつも、大統領を選出し更なる議会選挙を回避するために共産党と自由民主党の協力の可能性を追求する旨発言。
- ・27日、パサト・ヒューマニスト党代表(元国防相)は、「ヒューマニスト党」の「人民民主党」への党名変更を発表。
- ・2日、ヴォローニン共産党党首は、同日、共産党はドドン元経済相をキシナウ市長選挙への候補者とすることを決定した旨発表。

2. 経済

▼マクロ経済・財政

- ・26日、モルドバ経済省は、2011年のGDP成長率を5%、インフレ率を7.5%とする予測を発表。
- ・31日、議会在2011年予算案を最終読会で採択。歳入は約190億9,000万レイ、歳出は約203億5,000万レイであり、財政赤字額は約12億7,000万レイ(GDP比1.9%)。昨年比で、農業関連補助金が1億5,000万レイ削減され、2億5,000万レイとなった一方、道路基金予算が2億レイ増。
- ・31日、ドドン元経済相(共産党)は、農業部門への補助金増加、学校補修費用等の共産党発案の多くの予算案修正案が全く採用されなかったことは、共産党議員のみならず同党に投票した約70万人の国民の意見に対する拒絶である旨非難。

▼農業

- ・29日、ロシア消費財品質監督庁は、モルドバから輸入されたワイン積送品のうち、3つの積送品(計1万1,619リットル相当)の品質が衛生基準を満たさなかったと発表。同ワインはリオン・グリ社の生産。

3. 外政

▼29日、レアンカ外務・欧州統合相の訪露

- ・レアンカ外務・欧州統合相は、ラヴロフ露外相と会談。二国間関係、沿ドニエストル問題等につき協議。両者は2011～2013年の人文分野の協力に関する両国外務省間のプログラム及び2011年の両国外務省間の協議計画に署名。

▼29～30日、トゥスク・ポーランド首相の来訪

- ・29日、フィラト首相は、トゥスク・ポーランド首相と会談。二国間関係及びモルドバ・EU関係等につき協議。
- ・29日、トゥスク・ポーランド首相は、欧州の共同体はモルドバの欧州統合の道のりにおける成功につき承知している、欧州を代表して自分がモルドバの成功を歓迎したい旨発言。
- ・29日、フィラト首相は、モルドバは東方パートナーシップの「サクセス・ストーリー」となるべく努力している旨発言。
- ・30日、ルプ大統領代行は、トゥスク・ポーランド首相と会談。二国間関係、ポーランドのEU議長国就任の文脈におけるモルドバの欧州統合等につき協議。

▼その他

- ・31日、チェシュコフスキ・ポーランド外相全権代表(東方パートナーシップ担当)は、9月にポーランドで開催予定の東方パートナーシップ・サミットにおいてモルドバのEU加盟の見通しが得られる見込みと発言。

4. 沿ドニエストル

- ・26日、ミツール・コルジョバ村長は、同村民2名が明確な理由もなく沿ドニエストル当局に逮捕された旨発表。28日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、合同管理委員会(ICC)の働きかけにより同2名が解放された旨発言。
- ・28日、フィラト首相が委員長を務める国家再統合委員会合が開催。沿ドニエストル問題解決の現状、1992年から現在までに署名された沿ドニエストル問題解決関連合意文書、国家再統合新戦略の策定につき協議。
- ・29日、レアンカ外務・欧州統合相は、沿ドニエストル問題解決にかかる「5+2」者協議は、公式対話となりつつあることから、交渉へ変更すべきであるとし、公式協議再開の日程

及び開催場所についてはウィーンにおいて開催予定の非公式協議の場で決定され得る旨説明。

・29日、ラヴロフ露外相は、露は沿ドニエストル問題解決に必要な方向に早急に動かすよう支援する意思がある旨発言、モルドバ国家統一を前提とした沿ドニエストルへの特別な地位の付与に賛成と発言。これに関し、30日、沿ドニエストル「外務省」は、沿ドニエストル「政府」は国際社会における独立国家としての将来を追求するとの声明を発表。

・30日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、沿ドニエストルがモルドバとの公式交渉再開に合意するのは、モルドバが大統領を選出した後になる旨発言。

・30日、沿ドニエストル「最高会議」は、露による人道支援の第2トランシェとなる約720万ドルの国庫入金を発表。

・31日、レアンカ外務・欧州統合相は、4月4～5日に開催される予定の「5+2」者非公式協議が最後の協議であり、6月には公式レベルでの交渉が再開されるよう願うと発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)